

神戸女学院大学 女性学Inst. 映画会

日時 2022年11月26日(土)

13:00 開場 13:20 開演 (16:40終了)

13:30～ 映画『トークバック 沈黙を破る女たち』上映

15:40～ 坂上香 監督トーク

16:00～ Q&A ディスカッション

場所 西宮市大学交流センター大講義室

阪急各線「西宮北口」駅前アクタ6階



トークバック

www.talkbackoutloud.com

坂上香 監督作品

[Lifers ライファース 其身刑を超えて]

沈黙を破る女たち

※ 参加無料 下記よりお申込ください



参加申込：11月20日(日) 締切

定員に達し次第締切ますのでQRコードよりお早めにお申し込み下さい

<https://forms.gle/4ChCfMwc6ubefuZN6>



女たちのアマチュア劇団——それは芸術か、セラピーか、革命か？

舞台はサンフランシスコ。元受刑者とHIV/AIDS陽性者が、自分たちの人生を芝居にした。暴力にさらされ、“どん底”を生き抜いてきた女たちの現実とファンタジー。舞台上、日常で、^{声をあげ、呼吸}トークバックする女たち。

彼女たちの演劇は芸術か、治療か、それとも革命か？芝居を通して自分に向き合い、社会に挑戦する8人の女たちに光をあてた、群像ドキュメンタリー。

アタシたちをなめんじやない！

虐待、強姦、ドラッグ、売春、エイズ……

女たちの過去は惨憺たる経験だ。

だが、傷ついた過去を否定せずに、まるごと抱きしめることで、女たちは前を向く。

それまでよりも、もっとよく、やさしくなって。

坂上監督の「トークバック」は、その証言の記録だ。

上野千鶴子

(社会学者・認定NPO法人wan理事長)

特殊な環境の、特殊な女性たちと見ていたのだけれど、終盤のある場面で、そうじゃない、と気づいた。

ある場面に、私自身が自分でも驚くくらい、励まされたから。

これは懸命に生きる「ごくふつうの」女性たちが、「ごくふつうの」私やあなたを、そんなふうに励ます映画だ。

角田光代(小説家)

それぞれのHERSTORYが心に深く響く。

今度は、「あなた」があなたのSTORYを描く番だ。

落合恵子(作家)

どんなにサイテーな人生だったとしても、恥じることなんてない。顔をあげて、語るのよ！

『Lifers ライファース 終身刑を超えて』から10年。坂上香監督はこの映画の制作に8年を費やした。

“どん底”を味わった女たちが、芝居を通して新しい生き方を模索する姿に監督自身が強く心を揺さぶられ、沈黙を強いられる人々にどうしても伝えたい、と映画の制作を決意した。多くの困難を乗り越え、8年の歳月を経て『トークバック 沈黙を破る女たち』が完成。

いま、スクリーンと舞台、そして新たな人生の幕があがる——。

監督・製作・編集 | 坂上 香
共同プロデューサー | 麻生 歩
撮影 | 南 幸男
録音 | 森 英司
音楽 | 伊藤彰教
ポストプロダクション | Neo P&T
製作協力 | トークバック応援団
製作・配給 | out of frame
宣伝 | スリーピン

坂上 香 監督作品

『Lifers ライファース 終身刑を超えて』

トークバック 沈黙を破る女たち

www.talkbackoutloud.com
facebook.com/talkbackoutloud
twitter.com/TalkBackDoc

ネット連載
エッセイ
坂上香監督の“トークバック”製作ノート
wan.or.jp/reading/?cat=72

ドキュメンタリー映画 | 2013年 | 日本 | HD | カラー | 英語 | 日本語字幕 | 119分

トークバック
talk backとは？

言い返す、口答えするというネガティブな意味で使われることが多い。しかし、本映画では、沈黙を強いられてきた女性たちが「声をあげる」ことや、人々と「呼応しあう」というポジティブな意味で使っている。映画に登場するtalk back session(トークバック・セッション)は、上演後に持たれる質疑応答の場。



問い合わせ：神戸女学院大学女性学インスティテュート

TEL 0798-51-8545

E-mail wsi-o@mail.kobe-c.ac.jp

後援 西宮市・宝塚市

